

令和8年度

吉野川市立山川中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○聞いたり、読んだりしたことを通して、自分の考えや気持ちをまとめ、口頭や文章で表現できる生徒の育成
○基礎・基本の学習が定着し、主体的に学習に取り組んでいける生徒の育成

校長

谷 陽子

学力向上推進員

佐藤 智美

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についており、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。 ●表現することに苦手意識をもっている生徒が多く、自信のなさから無回答がいる。語彙が少なく、長い文章を正確に読み取ったり、問いの意図を理解したりすることができない。	・聞いた内容を理解し、理解したことを他者に説明することができる。 ・学習を通して得た知識が既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・授業や生活を通して、振り返り活動に力を入れ、授業の終わりと始めに生徒同士で伝え合う活動を徹底する。 ・聞く力の育成に継続して取り組み、全教職員の共通理解のもと小学校からの取り組みを継続し、自然と話し合い活動に取り組める生徒を育成する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○班学習や調べ学習等でまとめたものを聞き手や読み手に配慮しながら、まとめたり、発表したりすることができる。 ●準備したものをまとめて発表したり、書いたりすることはできるが、自分の知識を用いて、即興的に自分の意見や考えをまとめたり、他者の意見と比べたり、統合したりすることは難しい。	・言語活動を行う際に、目的や場面、状況に応じて、自身の知識や技能を用いながら、適切に応じたり、書いたりすることができる。	・生徒が自身の知識や技能を生かせる場면을授業等で設定し、継続的に取り組ませる。 ・自分の考えや意見をまとめて書く場面を設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題については、真面目に根気強く取り組み、提出することができる。 ●自分の苦手と向き合い、自ら学習課題を設定し、粘り強く取り組むことが難しい。	・自分の学習状況をしっかり振り返り、目標を設定できる。また、それを達成するために実現可能な計画を立て、それに向けて粘り強く取り組むことができる生徒を育成する。	・定期テストの勉強時間や勉強内容が次の定期テストに生かせるように、取り組み内容を工夫する。 ・課題に積極的に取り組めるように、生徒が可視化できる工夫を行う。			